

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** ガラススケール7点収蔵**

以前にも、先人の退職した後のデスクの引き出しに遺されたものが菓子折りの箱に入れて残されており始末に困るということを書いた。7本のガラススケールがガーゼに包まれビニール袋に入った状態で発見された(写真1)。おそらくこのガラススケール(写真2)もその類いであろう。使われていた本人にとってはその時点で大切なものであったに違いない。ガラスは金属に比べれば熱膨張係数が小さく正確な測定ができたのである。現在ではガラススケールというものを使う場面はないのかもしれない。せいぜい1/10mm程度の精度でしか読めない代物である。



写真1 ガーゼに包まれビニール袋に入ったガラススケール

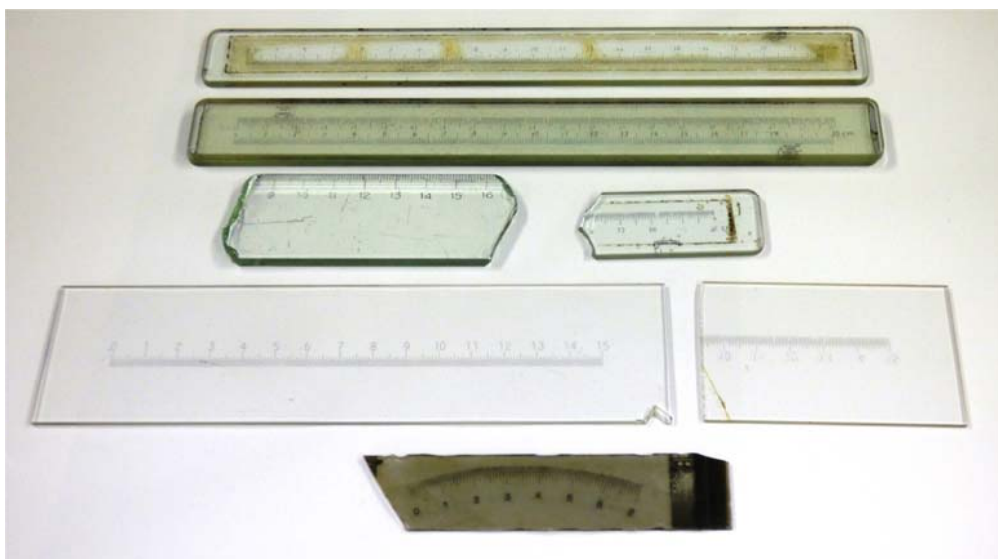


写真2 7本のガラススケール

20 cmのものが2本、15 cmのものが1本、割れた破片に近いものが3本、円弧になったのものが1本である。20 cmのものの1本はガラスで挟んだ形をしており、他の1本は目盛の保

護にセロテープが張ってある。15 cmのものは右下が少し欠けている。円弧のものはガラス乾板に円弧スケールを密着照射して現像した自作のもののようなものである（写真3）。

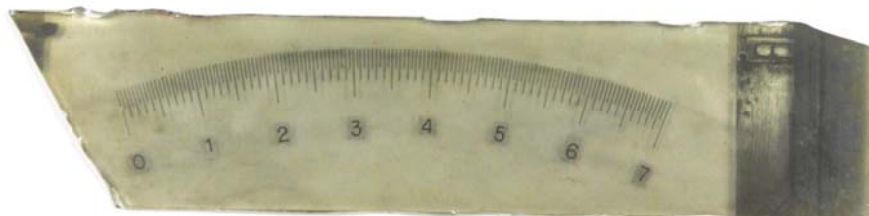


写真2 円弧のガラススケール

3本はガラススケールの断片であるが5 cm程度は測れるので捨てなかつたらしい。このように先人は物を大切にしたのである。これらもアーカイブに価値があるかと問われれば少し考えるが、何十年か前の先人は大切に使用していたものだから、收藏しておくべきであろう。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp